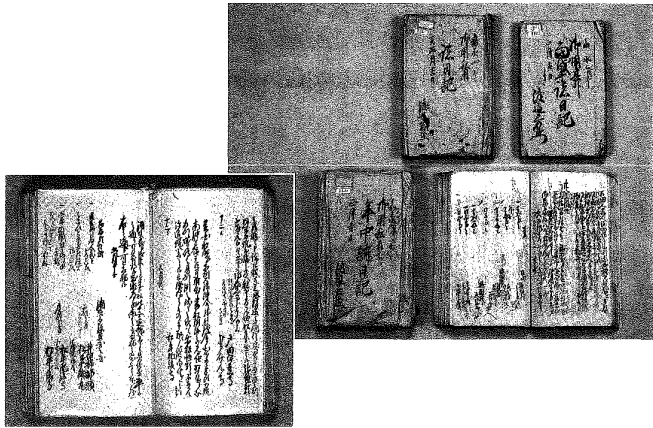


三右衛門日記(一)



廿八日 大フリ

上州佐位郡国定村
百姓八五郎事

清五郎
当戌四拾貳歳

無宿 忠次郎
同四拾貳歳

同村 まち
同三拾九歳

同州同郡八寸村
百姓 七兵衛
当戌六拾貳歳

同州同郡上植木村
百姓才次郎傳

才 吉
同貳拾七歳

右者御取締御出役様も国定村無宿忠次郎掛り合之囚人者、團預ケニ不相成ニ付、宥人別ニ相分ケ大切ニ番可致、手先衆上番申式人宛宥組ニ、番番囚人宥人江差添共番人三人、囚人式人江差添共五、六人之積り、依而組合村々江囚人預ケ触廻文、問屋衆我等調印ニ而相触申候

玉村町誌編輯室
〒370-11 群馬県佐波郡玉村町大字下新田201
TEL 0270-65-2511

玉村町誌刊行委員会

待望の玉村別巻V

三右衛門日記(一)がここに発刊されました。

この度玉村町では「三右衛門日記(一)」を刊行いたしました。この日記は天保の改革に当り玉村宿寄場組合大総代を勤めた渡辺三右衛門の「御用私用諸日記」を解読したものです。

日記は天保十三年暮から明治二年十月まで二十八年間二十九冊総丁数四七〇九丁、第二巻は弘化五年から嘉永六年までを収めました。

日記(一)は(一)に比べ記載の内容が詳しく贈答・関東取締出役や火盗改の廻村盗賊出入・不義密通・飯売下女身請等事件の経過が日を追って述べられ読み込むと興味津々にたるものがあります。

中でも嘉永三年の国定忠次郎玉村宿預りの十七日間の、三右衛門、村三役や組下百姓の番人割当(二之宮村まで)慈悲願、おとくの貸し金取立、出立時の忠次郎・おまち・おとくの服装・要した費用等詳しく記載されています。

また嘉永六年六月の黒船来航については、幕府の対応や廻船問屋手代の報告、新任浦賀奉行や諸大名の沿岸警護、日光お山や増上寺への祈願、さては何者か狂歌として八首、その中、例の「太平の眠りをさます蒸気船」の狂歌は私共が昔小学校で習った狂歌と少し違う様です。

特記したいのは訴訟で出府しての公事宿での状況です。川崎河原(大師)や湯島天神、飛鳥山の花見、西国の盛り場見物等、裁判関係の役人や地頭用人への訪問以外の出歩きが多い事です。これは佐倉の国立歴史民族博物館教授、高橋敏先生の「江戸の訴訟」(岩波新書)の記事にそっくりです。百姓の出費は莫大、従って公事宿は「馬喰町人の喧嘩で蔵がたち」と川柳によまれたほどです。第三巻は嘉永七年から安政五年までの予定ですので引続きごらんくださいます様よろしくお願いたします。

玉村町誌刊行委員会

目次

口絵 飯売下女引取一札、勝手抱寝囚人預り書、一宮抜鉢明神御免勅化状、黒船来航につき
幕府対応と狂歌
序

凡例	
弘化五年	一
嘉永二年	二四
嘉永三年	三〇一
嘉永四年	三九五
嘉永五年	四〇一
嘉永六年	四〇七
付録(子分追加・当字追加)	七六
あとがき	七九五

装丁

A5判
上製本
貼箱入り
総頁………八〇〇頁
口絵………四頁

第三巻

嘉永七年より安政五年まで
濱百姓調べ、火盗改め、関東
取締出役の活躍と三右衛門の
対応、竹材の大輸送等注目す
べき事項です。
平成十年三月配本予定